

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300020		
法人名	医療法人 英知会		
事業所名	グループホーム グッドスマイルズ		
所在地	山口県山口市桜島2丁目9番32号		
自己評価作成日	平成28年10月22日	評価結果市町受理日	平成29年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク	
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内	
訪問調査日	平成28年11月9日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当施設では併設の医療機関の主治医・看護師と密に連携をとり、入居者の体調管理を常に行い緊急時にも速やかに対応するように努めている。
 ・お一人おひとりに応じた対応、「その人らしさ」「その方にとっての当たり前」を大切にしている。入居者ができる事はしていただき、できない事に職員が寄り添う事を理念に掲げている。
 ・各ユニットで介護の重度化に応じた心身機能の維持に心がけている。例えば、身体的には、ラジオ体操、歩行練習、口腔体操など。精神的には脳活性プリント脳活性のレクリエーションや音楽鑑賞などに取り組んでいる。
 ・食事の面においての特色は、開業当初から市場直送の新鮮なお刺身を毎昼食にお出ししていることで好評を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎週実施されているカンファレンスで、管理者や計画作成担当者を中心に職員全員で意見を出し合わせ、利用者ひとり一人のケアの検討を行なっておられ、実効性のある介護計画の作成につなげておられます。センター方式の24時間生活変化シートや焦点情報、生活記録、伝達ノートから利用者の思いや意向を把握され、その人らしい個別の支援になっているかを話し合われて、理念にある「その人らしさ」を大切にしたい日々のケアに取り組んでおられます。ラジオ体操やストレッチ、口腔体操、歩行訓練、花の植え替えや種まき、花を生ける、花器の水替えなどの他、諺や慣用語、伝言ゲームなどの脳を活性化させるプログラムを活用したバリエティに富んだレクリエーションなど、利用者のできことや日々の楽しみごと、活躍できる場面を沢山つくって、張合いや喜びのある日々を過ごせるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホーム理念に基づき、今までの暮らし方を続けていただけるように「その方らしさ」を大切に、職員が寄り添うようにしている。また地域との交流を図ることを心掛けている。毎朝、理念の唱和を行っている。	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は毎朝、申し送り時に唱和し、カンファレンス時に「その人らしさ」を反映した個別支援になっているかを職員間で話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者同伴で、近所の店舗への買い物や周辺住民の方々との日常的な交流。地区の盆踊りに参加させていただきビンゴゲームを楽しませていただいた。また、小中学校の運動会に見学に行かせていただいたり、校外学習にも参加といった取り組みを行う。	自治会に加入し、職員は、地域の草刈を自主的に実施している。利用者は地区の盆踊りや小中学校の運動会見学に職員と一緒に出かけている。併設のデイサービス事業所にでかけて、来訪している保育園児やボランティア（ギター演奏、琴、笑いヨガ、ビューティケアなど）と交流している。近所の人と散歩時や近隣の商店での買物時に挨拶をかわして交流している。小学生の総合学習を受け入れている。	・地域の人との交流促進
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している施設だよりを法人内や屋外掲示板に貼り、地域の人々の理解を図っている。相談に来られた地域の方に包括等への手順を説明している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員がそれぞれで取り組み、項目の内容についての理解を行っている。ケアの課題・改善点を会議や申し送りで話し合っ、レベル向上に努めている。センター方式の勉強会を実施してスキルアップを図っている。	管理者は職員に評価の意義を説明し、職員数名から意見を聞いて前管理者と2人でまとめている。前回の外部評価結果を受けて応急手当や初期対応の訓練の実施、地域との協力体制の構築、評価項目の理解について目標達成計画をたてて取り組んでいるが、評価項目の理解を含めて自己評価への意識づけが職員全員に浸透するまでには至っていない。	・評価の意義や項目の理解

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	県大の先生、薬局の薬剤師の方に新たに参加していただけるようになった。2か月に1回定期開催、入居者の状態・現状やサービス提供・内部研修の報告などしている。今年度はデイひかりと年に2回合同で実施しており認知症デイの特色などを紹介し地域の代表の方に理解していただけた。	会議は今年度新たに有識者(地元大学福祉学部講師)1名と薬剤師を加えて、年6回(内2回はデイサービスと合同)開催している。利用者の状況や活動状況、行事計画、外部評価への取り組み状況を報告した後、話し合いをしている。参加者からは地域行事の紹介や災害時の対応についての意見があり、薬剤師からは「睡眠と安定剤」についての話があり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の不明な点や確認事項など必要に応じて、市の担当者に連絡・相談をして明確にしている。また、地域包括支援センターの職員とも運営推進会議等で情報交換や山口市の情報を獲得している。包括からの入居空き状況等の問い合わせに誠意をもって対応している。	市担当者とは電話やFAX、書類更新時に直接出向くなどして、情報交換や運営について相談し助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時や電話で、事例相談や情報交換を行い連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の内部研修に「身体拘束」を取り入れ、実施している。身体拘束にあたる項目を研修を通して職員間で理解を図っている。また、何気ない言葉掛けにも拘束同様になる場合への意識付けにも取り組んでいる。玄関施錠は、インフルエンザ・感染症などの発生時期において、玄関に掲示してインターホン対応させていただいている。	職員はマニュアル(身体拘束排除宣言)を基に内部研修で学び、身体拘束の内容や弊害について理解している。利用者は裏庭に出て草を引いたり、デイサービスに自由に出かけたり、外出したい利用者は職員と一緒に出かけているなど、閉塞感のない、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては気がついた時には管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項の「身体拘束」同様に内部研修を行い、虐待にあたる項目を職員間で理解し、虐待防止への意識を高め、見過ごされることがないように注意を払っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在すでに成年後見人制度を利用されている入居者がおられたり、今後においてのこの制度を利用したいご家族もおられるため社協等と連携し橋渡しをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約締結には時間を十分にかけ、入居者ご家族に不安なく入居していただけるよう努めている。また、解約時は今後の流れ等を説明し納得して頂けるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応体制を契約書に掲載し、ホーム玄関内の掲示し明確にしている。また、苦情受付時に速やかに処理手続きを行うことを定め、解決と今後のケースや運営に生かすことに努めている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定めて明示し、契約時に家族に説明している。家族からは面会時や運営推進会議時、年1回の家族会、月1回、明細を渡す時に直接聞いている他、居室に自由に書ける「ご意見ノート」を設置し、電話や手紙でも聞いている。毎月、利用者を担当している職員から家族に利用者の暮らしの様子を写真入りで知らせて意見が言い易いように工夫している。苦情や意見があれば苦情処理ノートや伝達ノートに記録して共有している。個別ケアに関する相談はあるが運営に反映させる苦情や提案はでない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、ケアカンファレンス、月例会議などの場を活用し、職員間の意見交換・情報交換等を行い、記録に残している。また、日常の業務中にも意見交換等ができるようにもしている。昨年食事の委託業者を変更しその後の様子や意見を集めて経過を見ている。	管理者は毎日の申し送り時や毎週金曜日にあるケアカンファレンス時に職員から直接意見を聞いている他、日々の業務の中で聞いている。職員からは業務分担内容の確認と徹底、正確な実施についての意見があり、伝達ノートを活用して業務内容の徹底を図るなど、それらを運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自に適切な評価ができるように面接を行っている。また、労働基準法を遵守し専属の労務士による人事考課、給与査定を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修・外部研修では実践者研修やGH職員研修などに参加する機会を通じて、職員の自己研鑽の機会を作る。また、新人職員へは担当がつき指導し、早期に業務に慣れ環境に適應できるよう配慮。	外部研修は職員に情報を伝え、職員の希望や段階に応じて受講の機会を提供している。受講後は研修記録を提出し法人研修の場で伝達をして全職員が共有している。法人研修は年間計画を立て、月に1回ケアマネジャーや職員が講師を務め、実施(身体拘束、プライバシー保護、センター方式の記録の仕方、食事介助、嚥下、認知症、感染予防等)し、希望者が受講している。新人研修はチェック表に基づき、2週間、同じ先輩職員に指導を受けて介護方法を学んでいる。	・職員を育てる取り組みの充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会に加入し、研修に参加することで他事業所との情報交換、ケアの参考にしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時ご家族にお願いしているセンター方式の生活歴等の情報や入居後、生活習慣やその方の思いなどの情報を職員が細やかな声かけで得、共有することで、その人らしい環境づくりが速やかに整うように配慮している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に面会を拒みたい人等、ご家族の事情を伺い配慮している。面会時には責任者が入居者の日常などを伝えている。また、必要に応じては電話で連絡し近況を伝えている。ご家族からの不安や要望などを聞かせていただき相互のコミュニケーション構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者ご自身・ご家族・主治医・ケアマネジャーその他関係者等から情報で包括的に検討し、その方らしい暮らしができるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とともに洗濯物干し・たたみ等の家事を行っていただいたり、時には入居者ご自身に委ねることで、支えあっているという関係を築くように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の近況を毎月一回発行の入居者だよりでご家族に送っている。また、必要に応じて電話をかけたり、面会外出時にお話しする機会を作っている。本人が書いた年賀状を家族に送って、あわてて家族が面会に来られた。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、墓参り等への外出はご家族と連絡を取ったり、今まで行かれていた教会へ日曜日ごとに出かけられる支援。また、盆暮れに限らず外泊外出で馴染みの人や土地に行かれる機会などで、入居以前の繋がりが途切れないよう支援に努めている。	家族の面会、親戚の人や友人、知人の来訪がある他、友人の迎えで教会の礼拝に出かけている。手紙や電話での交流を支援している他、家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や商店での買物、法事への出席、墓参、外泊など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク参加や家事作業を一緒に行くことや、ソファなどを配置し近距離での会話、仲良い入居者を隣席にするなど配慮し、気軽にコミュニケーションがとれるようにしている。また、トラブルは必要に応じて職員が仲介し穏やかな関係の継続に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設で看取りを実施した方のご家族については、その後、医院の患者さんで来られることがあり、会えば挨拶をして本人の思い出話をしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のなかの入居者の発言などから本人の思い・希望を聞き、また意思表示が困難な方には表情や言動から思いをくみ取るよう努め、職員間で意見交換や情報を共有し反映するように努めている。	入居時にセンター方式のシート「私の姿と気持ちシート」等を活用している他、日々の関わりのなかでその時の本人の表情やしぐさ、発した言葉等を介護記録に具体的に記録して思いや意向の把握に努めている。ケアプランに関連する事柄には下線を引いて介護計画に活かすようにしている。把握が困難な場合は、カンファレンス時に職員間で話し合い、意見を集約して本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を導入。入居者本人から聞くこと、また、入居時にご家族に記入していただくこと、その後も面会・電話等の機会などで、それまでの暮らしや入居までの経緯等を把握し情報を収集している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康管理表記録や介護記録などで常に心身の状態把握をし、申し送り時などで職員間で情報共有している。、身体的な変化は、訪問看護師に報告し医療と連携を徹底している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が本人の意向や困りごと等聞きケアカンファで計画作成者・職員が検討し「その方らしい」ケアプラン作成を行う。センター方式から24時間1週間観察記録し、プランへの反映に活かしている。医療的立場から主治医や訪問看護師の意見も常に取り込んでいる。	計画作成担当者や利用者を担当している職員が中心となって月に3回から4回カンファレンスを開催し、本人、家族の思いや主治医、訪問看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。個別性のある計画にするために、センター方式の24時間生活変化シート、焦点情報を基にした24時間、1週間の観察を計画に活かしている。モニタリングは月1回、利用者を担当している職員が行い、3ヶ月毎に全職員で実施し、6カ月ごとに計画の見直しをしている。本人の状態や家族の要望に変化が生じた場合はその都度、計画を見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、毎月のバイタルチェック表、プランの達成状況の有無と実施の詳細を記録し、評価している。また、プランの見直しに反映させている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス利用者であった入居者にとって馴染みの場所であるデイの関係を続けること、また、他の入居者にも声掛けをし、デイの行事に参加することで、楽しさの共有に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元で生活をされた方は近隣の散歩や馴染の市場等への買い物に行かれたり、また、教会信者の入居者は教会へ出かけたり教会関係者との往来つながりを通して信心を継続されている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居者ご自身・ご家族の希望にてかかりつけ医を選択していただいている（現在は全入居者、協力医療機関を選択されている）。協力医療機関の訪問看護師が週1回、その他必要時には即座に対応してもらえる体制が出来ている。	本人や家族の納得を得て、利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関は2週間に1度の往診がある。受診結果は介護記録に記録し、「受診報告書」や「薬用伝達ノート」を利用して共有し、家族には電話で報告している。他科受診は家族の協力を得て職員が受診の支援をしている。訪問看護師による週1回の健康観察や、医療機関と連携して夜間や緊急時の対応をするなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から医療連携体制を整えて、併設医療機関の医師・看護師へ入居者の状態の連絡を密にし、必要時の対応や受診に速やかに対応できるように徹底している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、併設医療機関の看護師・介護職員が必ずお見舞いに行き、状況の把握に努め、病院関係者と密な連絡に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化対応の方針に基づいて説明し、同意のうえ署名捺印をいただいている。実際に重度化した場合、ご家族、主治医、訪問看護師、関係者等で話し合い、医療機関への移設を含めて、方針を共有し支援に努めている。今回1例見取りを実施している。	契約時に「重度化対応の指針」に基づいて家族に説明して同意書を交わしている。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族の意向を踏まえた上で、かかりつけ医、訪問看護師等関係者と話し合い、方針を決めて共有して本人や家族の気持ちに添った支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故発生時はミーティングし記録に残し再発防止に取り組んでいる。特に、服薬ミス防止のため、配薬・与薬でダブルチェック必須。また、内外の研修の機会や年一回の救急救命講習会で実践的に取り組む。	事例が生じた場合はその都度、事故、ヒヤリハット報告書に原因や発生状況、対応状況を記録し、全員に回覧し、事故については後日、職員間で再度話し合い、ひとり一人の事故防止に取り組んでいる。職員は消防署の協力を得て救急救命法やAEDの使用方の講習を受講し、法人研修の中でも嚙下や与薬について学んでいるが、全職員が実践力を身につけているとは言えない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を昼夜それぞれを想定し実施している。運営推進会議で消防団長の方からの助言をいただいて協力体制強化にも努めている。	併設施設と合同で、年2回(内1回は事業所のみ)、消防署の協力を得て昼夜の火災と風水害を想定した通報、避難、消火訓練、避難経路の確認等の訓練を利用者も参加して実施している。「防災マニュアル」に沿って、災害時に対応できる併設施設と合同での職員間の協力体制はできている。運営推進会議で、消防団員のリーダーシップと自治会長の協力から地域全体で取組む内容の検討や地域と合同での避難訓練の必要性等について話し合っているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが入居者の尊厳に配慮した呼称や言葉遣いをするようにしている。尊厳に反したと思われる場合への目配せも常に行っている。また、居室への入室はノックや本人の許可を得、プライバシー保護に努めている。	法人研修(プライバシーの確保)で学び、利用者を人生の先輩として敬い、もし、自分の家族だったと自問して、りょうしゃの自尊心を傷つけず、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば管理者や職員間で注意し合っている。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身の自己決定できる機会を多く設けて、ご自身の思いや希望が表しやすい環境づくりに努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介助の際、ご自身の意向を伺い、意に副わない、拒否が見られる場合は強要しないようにしている。活動・休息のリズムもご自身の意向や体調に合わせた対応に心がけている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方は、馴染みの美容院に外出されたり、外出できない入居者には月1回の散髪訪問の機会を利用して、その方らしいおしゃれが出来る楽しみを支援している。また、衣類を選ぶ時も好まれるものを選ぶ配慮をしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員だけが行わず、テーブル拭・盛付・配下膳など可能な入居者と一緒に行く。また、レクの一環としてホットプレート使ったメニューやお寿司作り、おやつ作りなどの機会を通して料理段階からの楽しみや喜びの支援。おやつ時の食器洗いなら量が少なく油ものも少ないので入居者様にお願いをしてみるが無理じいはいしない。	食事は三食とも業者からの配食を利用し、ご飯は事業所で炊いている。利用者の好みを聞いて献立を選び、食品交換を行い、利用者の状態に合わせて食べやすいようにソフト食等、形態の工夫をしている。利用者は、テーブルを拭いたり、盛り付け、下膳、食器を洗うなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルについて同じものを食べている。毎週(月曜日～金曜日)の刺身や誕生日のケーキのデコレーションづくり、季節の行事食(おせち料理、ソーメン流し、クリスマス)、家族との外食など食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表に食事量・水分摂取量の記入を行い、個々の状態の把握に努めている。また、必要に応じて食事形態はとろみをつけたり、1口大にして適切なものに変更し食事の様子を常に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施で清潔保持。自力可能な方も声掛けやその後の確認としたり、必要な方は職員がブラッシングやマッサージ等施行。定期的な義歯の漬けおき洗浄も継続。また、訪問歯科検診で個々の口腔状態を把握し必要な処置を行って頂いている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	健康管理表で排泄のチェック、個々の排泄リズムを把握している。それをもとに声掛けやトイレ誘導のタイミングを図っている。排泄の自立の可能性を視野に入れた介助に心がけている。	職員は健康管理表や排泄チェック表を参考にして排泄パターンを把握し、習慣を活かして、ひとり一人に合った言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操、レクリエーションや散歩などで身体を動かす機会を1日1回は設けている。また、食生活では献立に便秘解消になるものを取り入れたり、水分補給にも配慮している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日できるようにしているが、入居者の体調やご自身の希望と意思を尊重し無理強いはいしないよう配慮している。入浴を好まれない方へは声掛けのタイミングや時間帯を変えたり、入浴剤を使ったりなどの工夫をしている。洗身内タオルを1つずつ揃え名前を縫いつけ専用で使用する事により衛生面を配慮している。入居者からは「気を遣ってくれて有難い」と好評	入浴は毎日可能で、10時から11時30分までの間と13時30分から15時までの間に、個々の洗身用タオルを準備し、順番や湯加減、季節の工夫としての柚子湯など、ひとり一人の希望に添って対応し、ゆったりとくつろいだ入浴になるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、入浴時間の変更や職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭やシャワー浴、部分浴など、個々に応じた対応をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の毎日の体調をその都度観て午睡や食後30分程度の静養を促している。また、室内照明や空調、寝具類もご本人の好みに配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに個々の薬の説明書を添付、薬剤師作成の居宅療養管理指導の書類も綴じて、いつでも確認できるようにしている。また、薬の変更時の状態変化なども速やかに主治医・看護師との連携を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にとって馴染で、喜びとなる趣味活動(テレビ・音楽鑑賞・カラオケ・貼り絵・オセロなど)や役割(洗濯物・掃除・食事の手伝いなど)等でその人らしい暮らしが続けられるように配慮している。また、同棟のデイサービスへ行かれ気分転換を図られる。GHの玄関ホールに花台を設け、職員が職員が家から持ち寄った花を入居者の方が生けられ日々管理されている。	テレビやDVDの視聴、ぬり絵、折り紙、ちぎり絵、貼り絵、紙工作、カレンダーづくり、クリスマスリースづくり、七夕飾り、散歩、外出、ラジオ体操、ストレッチ体操、口腔体操、風船バレー、食事づくりゲーム、脳トレ(計算、漢字、しりとり、諺、四文字熟語)、ビューティケア、笑いヨガ、ギター演奏、クリスマスコンサート、掃除(手すり拭き、雑巾がけ、モップで床を掃く)、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物を自室に持ち帰る、生花を生ける、花器の水替え、花壇の草引きなど、利用者の喜びや張り合いとなる楽しみごとや活躍できる場面をつくり支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事計画を立て、無理の無い範囲の外出をしていただき、気分転換や季節感・目の保養に努めている。また、ご家族とも連携をとって入居者が安心、安全に外出できるように支援している。	近隣の散歩や買物、馴染みの美容院に出かけている他、季節の花見(桜、つつじ、紫陽花、コスモス、彼岸花、紅葉)、ドライブ(道の駅)、初詣、梨狩り、鯉のぼり見学に出かけている。家族の協力を得て外出や法事への出席など、ひとり一人の希望に応じて出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、個々の小遣いをご家族等からお預かりし収支管理させていただいている。使用目的で必要がある場合はご家族に相談している。入居者の状態に応じ可能な方は、行事や外出時は職員見守りのもと買い物・支払いの機会を作っている。毎日曜に教会に出かけられ方がおられその都度、決まった額を本人に渡しその中から献金や買い物をされている。収支決算をその都度行い、領収証の無い献金等の流れを把握し、ご家族に報告している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者ご自身の希望でご家族・知人等へ電話をかけたり、かかってきた場合もスムーズに対応できるよう配慮している。電話対応援助必要な方は職員が傍で介助。また、手紙は投函などを職員が支援し、自由にやり取りできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	段差や障害物がなく、安心・安全に車椅子や自力歩行での移動の配慮をしている。共有スペースにソファを置き入居者が好きな場所で自由に寛げ、室温や照明にも常に配慮し居心地よい空間づくりを提供。季節の貼り絵や写真などを飾り視覚で季節を感じていただいている。	ガラス窓から見える田園風景からは四季折々の自然を感じることができる。明るく清潔感のあるリビングにはソファ、食卓、椅子をゆったりと配置し、季節に応じたオブジェを飾り、居心地の良いスペースとなっている。対面式のキッチンからはご飯の炊ける匂いや盛り付けする姿を見ることができ家庭的で生活感あふれる空間となっている。温度や湿度、換気、音を適切に調整し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは食事の際の自席が配置されているが、ソファを設置することで入居者が好きな場所で自由に寛げる居心地の良い空間、他者交流の場となるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご自身の馴染みの品物(家具・写真・仏壇など)を持ち込まれることで、その方らしい暮らしがここでの続けられ、それが安心して穏やかに過ごすことに繋がるという意味を説明している。	ベッドや箆笥、テレビ、小ケース、衣類、帽子、化粧道具、仏壇等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、長寿祝いや表彰状、誕生日カード、家族写真、カレンダーを飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存機能や必要に応じてトイレや居室の目印を付けたり、ご自身の判断での行動が安心・安全に出来るよう配慮している。GH理念にも掲げられているできることはしていただき、できないことには寄り添うが、常に入居者の立場を尊重した生活を常に心がけている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム グッドスマイルズ

作成日：平成 29 年 3 月 28 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14 35	定期的に研修を実施しているが職員の入れ替わりがあり、他事業所から来た職員の力量はそれぞれ異なる。	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続。 職員のスキルアップ。	昨年に引き続き施設内法人内の看護師による応急処置や初期対応の研修を定期的開催し受講がまだの職員が参加出来るように便宜を図る。 即戦力、実践力を磨く。	1年間
2	2 36	運営推進会議で議題を設け、避難訓練等の立ち会いをお願いし来ていただいたが、協力とまでは至っていない。	地域との協力体制の構築に向けた取り組みの継続。	認知症講座や認知症カフェなどを企画開催し、地域の方が来所しやすい環境作り。 避難訓練時、地域の方たちの協力を仰ぐ。	2年間
3	4	全職員が評価の意義や項目を理解しているとは言えず、評価を活かした取り組みが十分とは言えない。	職員一人一人が評価について理解が出来、今後の仕事に活用できる。	今回の外部評価結果を全職員で閲覧し意義や理解を深め、改善点、目標を周知し、今後の仕事に活かし意識を高める。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。